

総務文教常任委員会活動レポート

開催日時：令和4年6月15日(水)

開催場所：1・2号委員会室

6月定例会提出の議案について審査し、担当部局から個別の案件ごとに説明を受け、質疑、協議、申し入れなどを行いました。

総務部

1. 新型コロナウイルス感染症対応地方創成臨時交付金について

(1) 新型コロナウイルス感染症対応地方創成臨時交付金の活用が可能な事業及びコロナ禍における原油価格・物価高騰対応分の活用が可能な事業について、基本となる臨時交付金の事例と今回追加となった原油価格・物価高騰対応分の活用可能な事業例の説明を受けました。

(2) 中標津町新型コロナウイルス感染症対策概要について

中標津町における、令和2年度から現在までの新型コロナ関連の対策状況や具体的な内容の説明がありました。事業費で50億6335万2千円、内訳として国・道補助金34億6472万1千円、臨時交付金で11億3392万4千円となっています。また、感染症対策への寄付金は、令和元年から令和3年度の合計で2165万8千円との報告を受けました。

【主な質疑】

委員：町として、交付金の使途をどこに重きを置いていますか？

担当：今後の感染状況、経済状況に応じた対策と、さらに燃料等の高騰対策に充当していくという国の方針に基づき、効果的な感染症対策及び経済対策へつなげるよう早急な対応を要するものと、燃料・物価の上昇を秋、冬も見据えて対応するものなど必要な対策を検討しています。

委員：現在の感染状況は若年層が中心となっているのですか？

担当：コロナの感染状況は、1週間単位で年代別感染者数をHPでも公表しています。若年層の感染者から家族内で感染する状況が多くなっています。

委員：町としては、給付の対象を全世帯向けと考えているのか、または対象を絞って給付する考えなのか？

担当：これまで全世帯向けの交付金事業などは国が実施してきました。町としては全町民一律ということではなく、必要などころに必要な支援をすることを基本と考えています。関係機関との意見交換など状況を確認した上で、支援の対象を決めていくという進め方です。

委員：燃料、物価高騰分として1億3千万円の交付金でバス・タクシーや運送事業者に

に対する支援も可能となっています。しかし、様々な業種の多くの事業者が燃料・物価高騰の中にあって、単なる一律給付のような形では、交通・運輸事業者の燃料上昇分の負担に見合う効果が薄くなると思いますが、町はどのように考えていますか？

担当：交通・運輸業については、国や道の直接補助の事業もありますので、町としてはそれらを踏まえた、効果のある交付金の活用事業となるように、業界や団体とも協議しながら決定していきたいと考えています。

委員：牛乳・乳製品活用促進事業の補正額 150 万円が計上されており、空港における一過性の事業となっています。町民や町外の方など多くの空港利用者に牛乳消費拡大を訴えるには、継続的な事業としなければ効果がないと思います。経済部の所管ですが、財政所管の総務部としてどのように考えましたか？

担当：臨時交付金における事業、全般に対して事業の効果や継続した効果を出せる事業の趣旨、目的を持つように指示しています。

委員：臨時交付金の交付対象外経費に「事業者等への損失補償」とありますが、業績が悪化した場合の補助金などとは違った考え方であって、損失補填はできないのでしょうか？

担当：臨時交付金は、事業者それぞれの損失金額に応じた補填はできないというもので、定額や定率の支援は対象となります。

町民生活部

1. 保育士等処遇改善臨時特例事業について

【主な質疑】

委員：昨年度の補正で2月から3月分、今回の補正で4月から9月分になっていますが、10月以降の分はどうなりますか？

担当：10月以降は、処遇改善分を国・道・町が負担割合に応じ給付費として支給されません。

経済部

1. 牛乳・乳製品活用促進事業について

(1) 牛乳試飲会&販売 (98 万円)

中標津空港出発ロビーで、牛乳試飲会と牛乳・乳製品販売を実施。

(2) 地元特産品販売会 (42 万円)

中標津空港で8月21日に中標津町産の牛乳・乳製品などを集めた販売会の実施。

(3) 牛乳・乳製品レシピコンテストで考案された料理の提供 (10 万円)

F Mはなが実施した牛乳・乳製品レシピコンテストの入選料理を中標津空港で8月21日に来訪者へ提供。

【主な質疑】

委員：牛乳消費拡大推進委員会負担金 150 万円の事業について、一過性のイベントではなく継続性のある牛乳消費拡大事業とすることが大切あると考えますが、今後のビジョンについて説明をお願いします。

担当：継続事業としては、牛乳消費キャンペーンを従来、冬に行っていましたが今年は夏も行うこととしており、その一環で6月4・5日開催のしるべ 2022 フェスタで消費拡大ブースを設置し、PR・販売を行いました。また、昨年度に美唄市で行ったイベントと同様のイベントを、6月26日に雨竜町で日ハムのBBプロジェクトと連携し参加する予定です。これからも農協と連携して事業を行っていきたいと考えています。

委員：消費拡大の効果を引き出すには、飲んでもらうことが一番であり、町民が毎日 200 c c を飲むと相当の消費量となり、全国民に広がれば計り知れない牛乳消費に繋がります。そのためには町民が、毎日牛乳を飲むという習慣づけを行うような事業展開をはかるべきです。今般の物価高騰により、酪農家1戸で年間700万円程度の経費増加の試算があります。それを補うためには生産量を上げるしかありません。牛乳の消費が増えなければ、生産量を上げることができません。町を上げて取り組むような牛乳消費拡大事業の展開をしていただきたい。

担当：一人1日コップ一杯の牛乳を飲んでもらうことで相当な効果があると思います。レシピコンテストの牛乳を使った料理を広めていくことで、料理によって牛乳の消費につながるため、レシピ本の作成と配布をやっていきたいと思っています。また、毎日、牛乳にかかわる食生活というPRの仕方を考えていきたいと思っています。